

## はじめに

校長 佐藤 正光

平成 27 年度指定スーパーグローバルハイスクール (SGH) の認定校としての研究開発実施報告書 (第 2 年次) を提出いたします。

本校は国際バカロレア機構 (IBO) が提供するミドルイヤーズプログラム (MYP) とディプロマプログラム (DP) を実施する学校として、その特長である探究型のカリキュラムを活かした SGH の実践を目指して認定校の指定を受けました。模索しながらの 1 年目を経て、本年度はさまざまなプログラムを実施し、多くの大学や研究機関、企業、NPO などの研究者や事業者にご協力をいただいて、生徒達の自発的な発想による研究活動を実践いたしました。

SGH は「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的としています。本校では、日頃から授業や学校生活を通じて生徒たちに国際社会の中に存在する現代的課題に正面から取り組み、問題解決のための問いかけをしています。現代の社会が抱える格差や貧困による人口や食糧問題、世界的な環境問題、テロリズムや国家主義による紛争や脅威などあらゆる社会的事象に関心を持ち、その原因や解決方法を考える、そしてそのために合理的な方法や論理によって問題の本質を解析する、それが国際バカロレア (IB) の目指す探究型の教育です。6 年間一貫の教育を通じて数十篇の課題レポートに取り組むほか、1 年生の富士ワークキャンプ、3 年生の沖縄ワークキャンプ、5 年生のカナダワークキャンプにおける研究と体験活動、4 年生が取り組む Personal Project (PP)、5・6 年生の課題研究など多くの研究の機会があり、それらを校内で発表してきました。SGH の認定によって、その発表の場が飛躍的に拡大され、大学や高校での合同発表やシンポジウム、また海外にまで出かけて意見交換やグループワークを行うなど、生徒たちに広い世界を提供することができつつあります。

本年度は SGH 事業の二年目に当たり、認定されて三年目を迎えたスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業との整合性と相乗作用とを図りながら、前期課程 (中学校課程) の生徒にも取り組む機会を提供して、多くの研究活動が行われました。生徒たちは昨年度の研究をさらに発展させたり、後輩に研究を継承してもらったり、いろいろな工夫も行うようになってきました。夏のスクールフェスティバルでは思うように成果の出ないまま発表していた生徒が、冬の合同発表会では自信を持って発表する姿を見たりしていると、生徒たちの持つ可能性と全力をそそぐ態度とに感心させられます。そして先輩のプレゼンテーションを見た後輩たちが、それを参考にしてさらに興味深く実証性の高い研究を生み出すのではないかと期待しております。

私たちは、生徒の抱く夢のような発想が実現の可能性に一步でも近づくことを、そしてその夢に向かって突き進む前向きな生徒たちを育てることを理想として、日々この事業に取り組んで参りました。その成果を御高覧いただき、ご指摘、ご助言を賜わることができましたら幸甚に存じます。